

**東日本大震災
における
第2施設団の軌跡**

目次

- 1 [震災概要・活動全般（JTF-東北）](#)
- 2 [原子力災害への対応](#)
- 3 [災害派遣部隊等について](#)
- 4 [活動状況全般](#)
- 5 [搜索活動等](#)
- 6 [第2施設団の活動経過](#)
- 7 [各部隊の派遣活動 第1期](#)
- 8 [各部隊の派遣活動 第2期](#)
- 9 [応急復旧活動の実績](#)
- 10 [自衛隊における災害派遣とは](#)

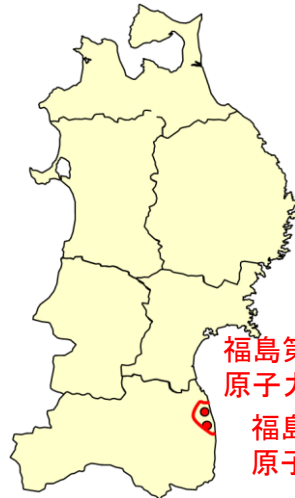
震災概要・活動全般 (JTF-東北)

[目次へ](#)

東日本大震災に係る災害派遣

震災の概要

- 1 発震時
平成23年3月11日
(金) 14時46分
- 2 震源
三陸沖
- 3 地震の規模
震度7 M(マグニ
チュード)9.0
- 4 特色
 - 津波による広域・甚大な被害
 - 原子力災害との複合事態
 - 地方自治体の機能喪失



福島第1
原子力発電所
福島第2
原子力発電所

津波による被害の状況



福島第1原子力発電所



被害の概要

死者・行方不明者	23,562人
避難者数	最大約387,000人

活動規模及び活動実績

【活動規模（延べ）】

人員	約3,200,000人
車両	約950,000両
航空機	約1,500機

【活動実績】

活動区分	活動実績
人命救助	生存者 19,286人
	収容遺体 9,505体
給水支援	30,195t
給食支援	4,483,245食
入浴支援	1,044,275人
衛生支援	16,840人

ガレキの除去



行方不明者捜索



東日本大震災の概要



陸前高田市（岩手県）

平成23年3月11日（金）14時46分、宮城県三陸沖付近においてマグニチュード9.0の地震が発生、長時間の揺れに普段の地震とは「違う」と感じた。特に、太平洋沿岸部は震度6を超える大きな揺れが広範囲にわたり発生した。



南三陸町（宮城県）



気仙沼市（宮城県）

この地震により、気象庁は、14時50分、太平洋沿岸部等に大津波警報を発令したが、想定をはるかに超える大津波が太平洋沿岸を襲い、特に、岩手県三陸海岸から宮城県、福島県の沿岸部を中心に、近代日本において例を見ない甚大な被害が発生した。

原子力災害への対応

[目次へ](#)

原子力災害への対応



海水を取水し、放水



原子炉の温度・放射線強度の測定

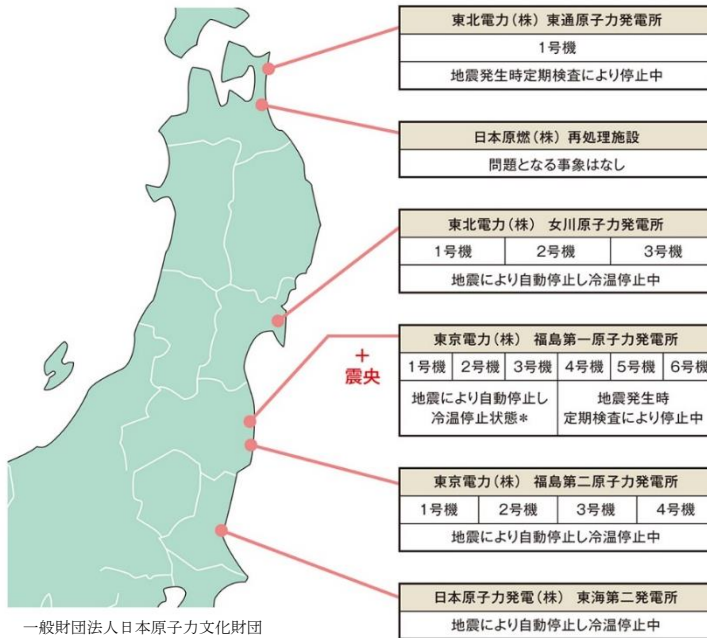


消防車による放水

原子力被害の状況

東日本大震災の影響を受けた原子力施設の現状

(2014年12月現在)

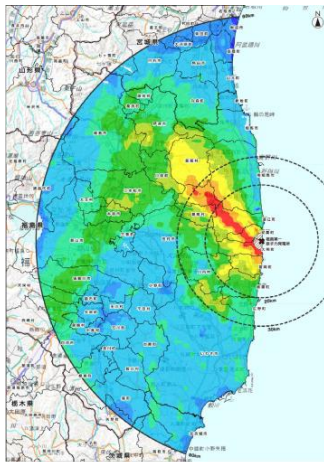


一般財団法人日本原子力文化財団

※1～4号機は、燃料取り出し、廃炉に向けた作業を実施中

※冷温停止状態の定義

- 圧力容器底部の温度が概ね100℃以下になっていること
- 格納容器からの放射性物質の放出を管理し、追加的放出による公衆の被ばく線量を大幅に抑制していること(評価時点における格納容器からの追加的放出による敷地境界における被ばく線量1ミリシーベルト/年が目標)
- 上記2条件を維持するために、循環注水冷却システムの中期的安全を確保していること



文部科学省発表 平成 23 年 12 月 16 日

福島第一原発 事故の概要 事故発生直後の対応

時刻	内容	東京電力の対応	国(保安院)の対応
3/11 14:46	東北地方太平洋沖地震発生(福島第一において震度6強)	福島第一1～3号機(地震により自動停止)4～6号機(定期検査で停止中)	政府対策本部設置、緊急時対応センターへ職員参集、現地に職員をヘリコプターで派遣。
15:15			保安院プレス会見、モバイル保安院による情報発信。
15:27	津波第1波(高さ4m)が到達		
15:35	津波第2波(高さ15m)が到達		
15:42		原災法10条通報(全交流電源喪失1～5号機で起動していた非常用発電機が津波により故障)	原子力災害警戒本部設置
16:36		原災法15条の事象と事業者が判断	
19:03	震度5強以下の余震が数回発生		原子力緊急事態宣言の発出、原子力災害対策本部設置
21:23			半径3km圏内住民避難指示、10km圏内住民屋内避難
3/12 5:44			半径10km圏内住民避難指示
18:25			半径20km圏内住民避難指示

青森県原子力安全対策検証委員会報告書より
原子力安全・保安院作成資料

原子力規制庁

地震及び津波の発生直後、福島第1原子力発電所において、原子炉冷却機能の喪失により極めて重大な原子力災害が発生し、3月11日(金)に政府が原子力緊急事態宣言を発令した。

福島第一原発から30Km圏内の空間放射線量率

図 1-2-2 警戒区域、避難指示区域の変遷

(平成23 (2011) 年4月21日～9月29日)

This map illustrates the evacuation zones established around the Fukushima Daiichi and Daini nuclear power plants from April 21 to September 29, 2011. The map shows the following zones and their associated restrictions:

- 計画的避難区域 (Planned Evacuation Area):** Indicated by an orange outline, covering Iitate Village (飯舘村). Restrictions include:
 - ・立入可能 (Entry possible)
 - ・宿泊禁止 (No overnight stay)
- 緊急時避難準備区域 (Emergency Evacuation Preparation Area):** Indicated by a blue outline, covering areas around Maesada Town (川俣町), Nakama City (南相馬市), and Tamaki City (田村市). The restriction is:避難の準備 (Preparation for evacuation).
- 警戒区域 (Warning Area):** Indicated by a red outline, covering areas around Wajiang Town (浪江町), Fudō Town (双葉町), Ōkuma Town (大熊町), Tōdō Town (富岡町), Kawanishi Village (川内村), Tadatsubo Town (楢葉町), and Hirano Town (広野町). Restrictions include:
 - ・立入禁止 (No entry)
 - ・宿泊禁止 (No overnight stay)

The map also shows the locations of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant (福島第一原子力発電所) and the Fukushima Daini Nuclear Power Plant (福島第二原子力発電所). Distances of 20km and 30km from the plants are marked with concentric circles. Surrounding municipalities such as Fukushima City (福島市), Maesada Town (川俣町), Maesada City (二本松市), Matsumoto City (本宮市), Sanchō Town (三春町), Iwaki City (いわき市), and Maesada City (郡山市) are also labeled.

(平成 25 (2013) 年 5 月 28 日現在)

This map shows the evacuation zones around the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. The legend indicates the following categories:

- 帰還困難区域 (Pink area)
- 居住制限区域 (Orange area)
- 避難指示解除準備区域 (Green area)
- 計画的避難区域 (Yellow area)
- 第30号原災本部 (5/7) で区域見直しを終えた町村 (Blue circle)
- 区域見直し未了の町 (Red circle)

Key locations and dates shown on the map include:

- 飯館村 (Ihigane Village) (2012/7/17~)
- 川俣町 (Kawama Town) (Red circle)
- 南相馬市 (Minamibara City) (2012/4/16~)
- 葛尾村 (Kaseno Village) (2013/3/22~)
- 浪江町 (Nagasaki Town) (2012/4/1~)
- 双葉町 (Futaba Town) (Blue circle) (2013/5/28~)
- 田村市 (Iwatsuki City) (2012/4/1~)
- 大熊町 (Okuma Town) (2012/12/10~)
- 富岡町 (Tomoga Town) (2012/3/25~)
- 川内村 (Kawachi Village) (2012/4/1~)
- 楮葉町 (Kumegata Town) (2012/8/10~)
- 福島第一原子力発電所 (Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant)
- 福島第三原子力発電所 (Fukushima Daini Nuclear Power Plant)

Scale: 20km

資料：復興庁資料

原子力発電所から半径 20 km 圏内の約 18 万人は、
自宅からの避難を余儀なくされた。

災害派遣部隊等について

[目次へ](#)

災害派遣部隊等全般の態勢

人 員 約105,800名
 陸災部隊 約70,000名
 海災部隊 約14,200名
 空災部隊 約21,600名

空災部隊



C-1



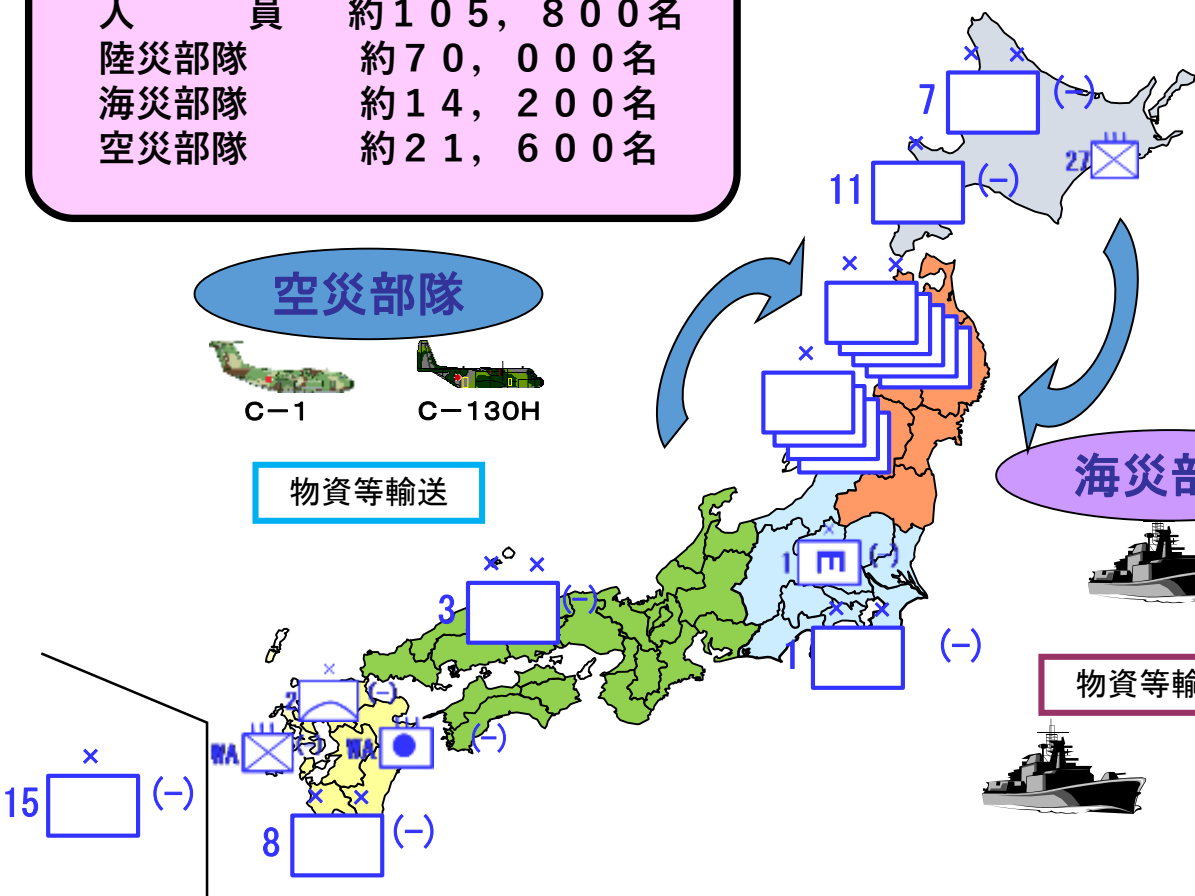
C-130H

物資等輸送

海災部隊



物資等輸送



CRF

災害派遣人員	約900名
可動航空機	24機

東部方面隊

災害派遣人員	約3,800名
可動航空機	39機

中部方面隊

災害派遣人員	約3,500名
可動航空機	34機

西部方面隊

災害派遣人員	約3,100名
可動航空機	41機

北部方面隊

災害派遣人員	約2,800名
可動航空機	39機

東北方面隊

災害派遣人員	約45,000名
可動航空機	67機

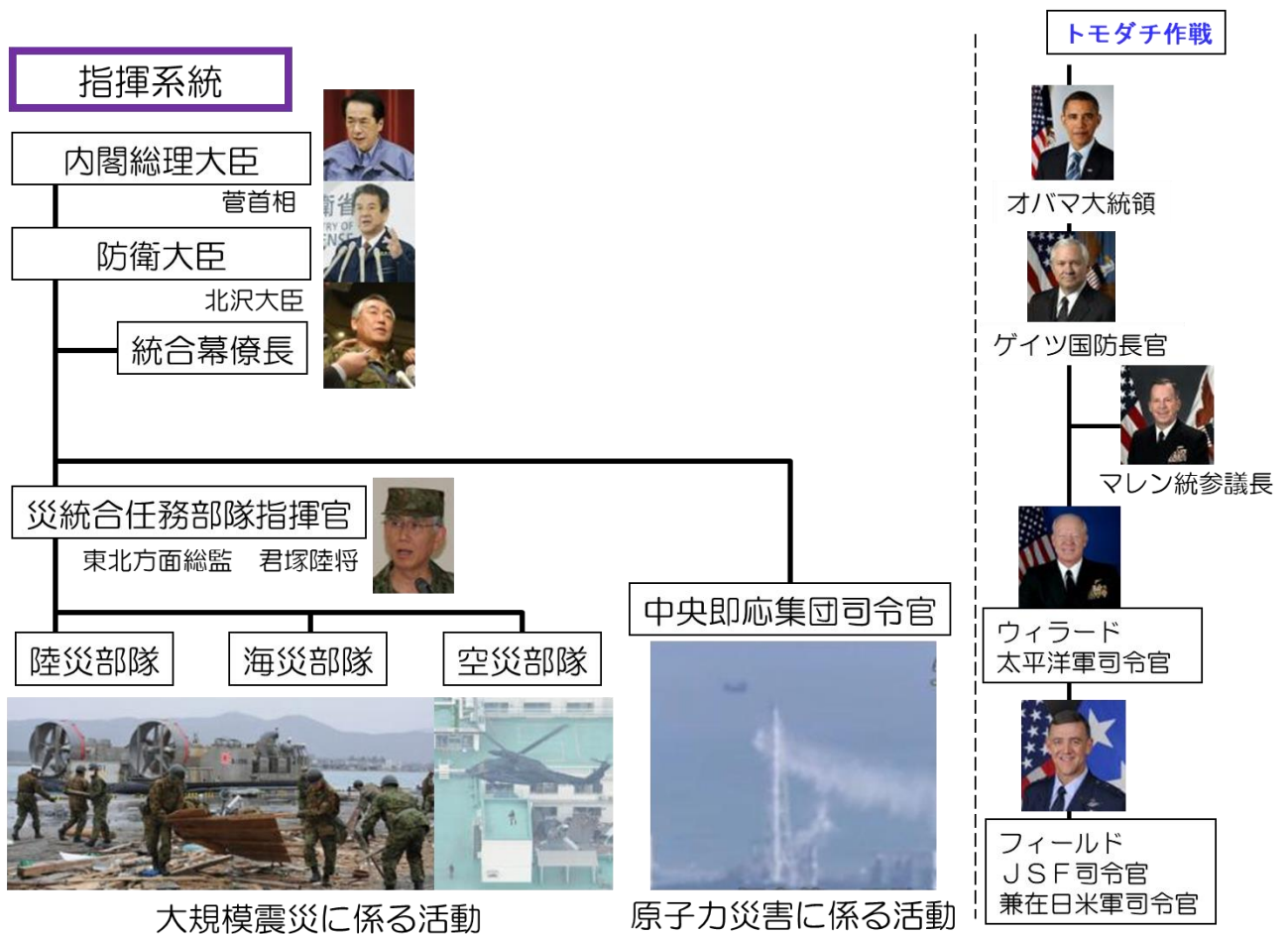
航空学校

可動航空機	約51機
-------	------

陸幕等（大直・学校含む）

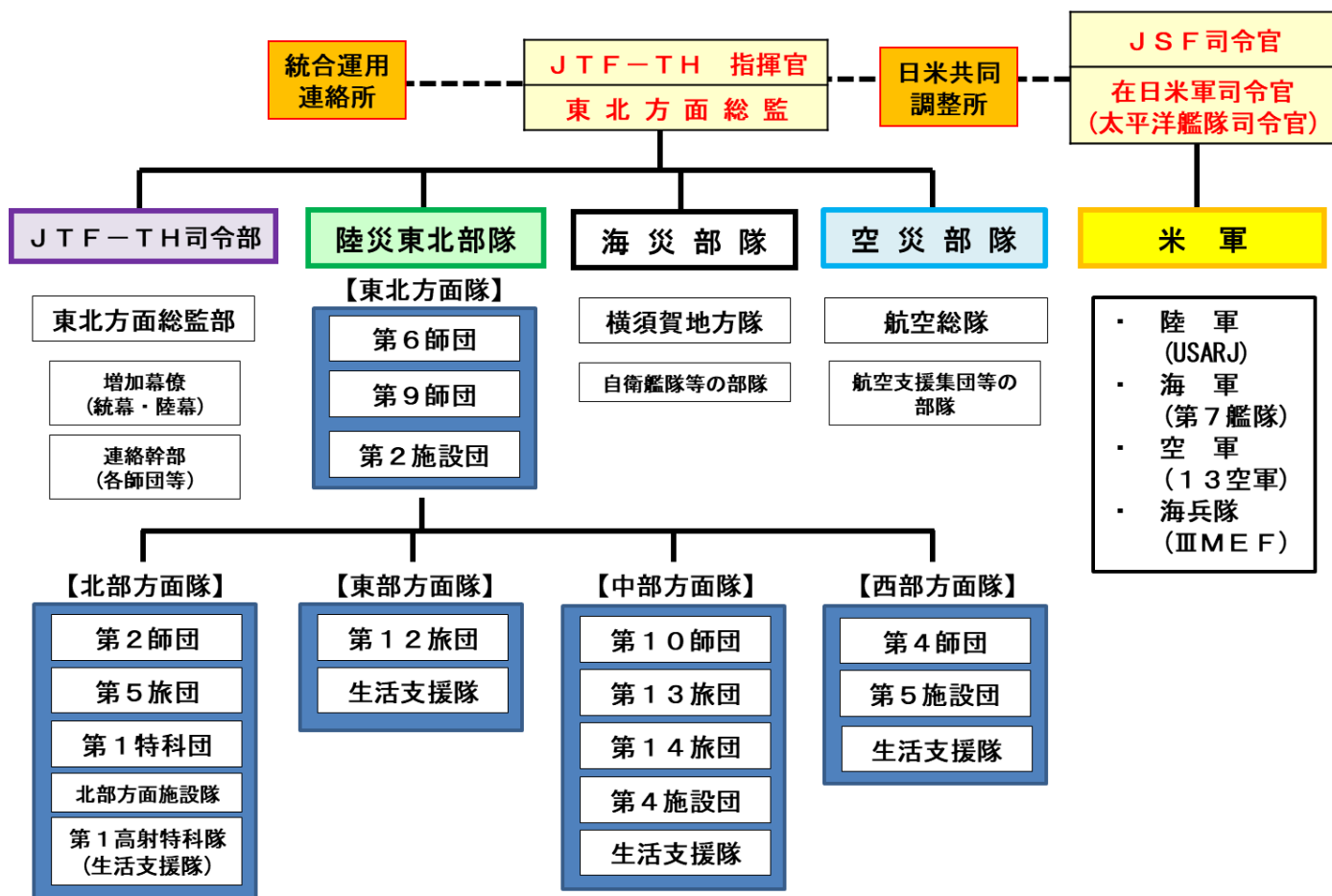
災害派遣人員	約10,900名
--------	----------

日米の指揮系統



政府は、3月11日15時14分、緊急災害対策本部を設置するとともに、同日15時30分、本震災を自衛隊の災害派遣に関する訓令（昭和55年防衛庁訓令第28号）第2条第5号に規定する大規模震災に指定した。

災統合任務部隊（ＪＴＦ－東北）の編成



防衛省・自衛隊は、東北方面総監に対し、隷下部隊及び各方面総監等から差し出された部隊等をもって、陸災東北部隊を編成するとともに、横須賀地方総監を長とする海災部隊及び航空総隊司令官を長とする空災部隊をもって災統合任務部隊を編成し、災統合任務部隊指揮官として指揮するよう命じた。

活動状況全般

[目次へ](#)

全般の活動状況

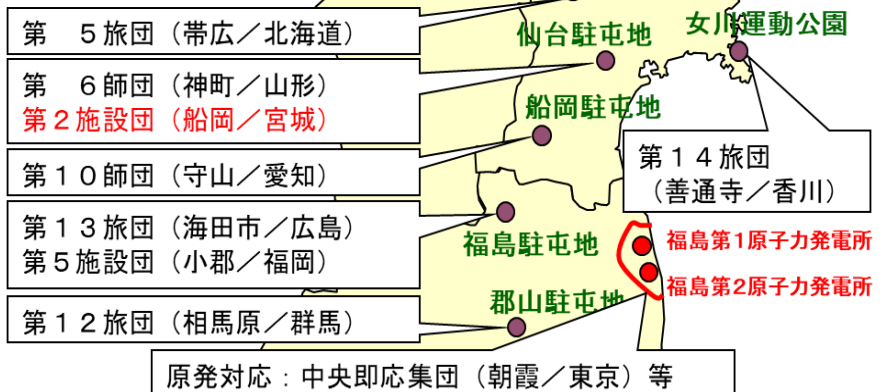


東北方面区における活動状況

活動部隊		任 務
J T F - 東北	・ 5 コ師団 ・ 4 コ旅団 ・ 3 コ施設団等	○行方不明者捜索及び生活支援 ○応急復旧活動(道路啓開等)等
原子力災害派遣	・ 中央即応集団 ・ 第1ヘリコプター団 ・ 中央即応連隊 ・ 中央特殊武器防護隊 ・ 対特殊武器衛生隊 ・ 師団・旅団隷下の化学科部隊等	○除染活動 ※除染所運営(8ヶ所) ○消火活動等

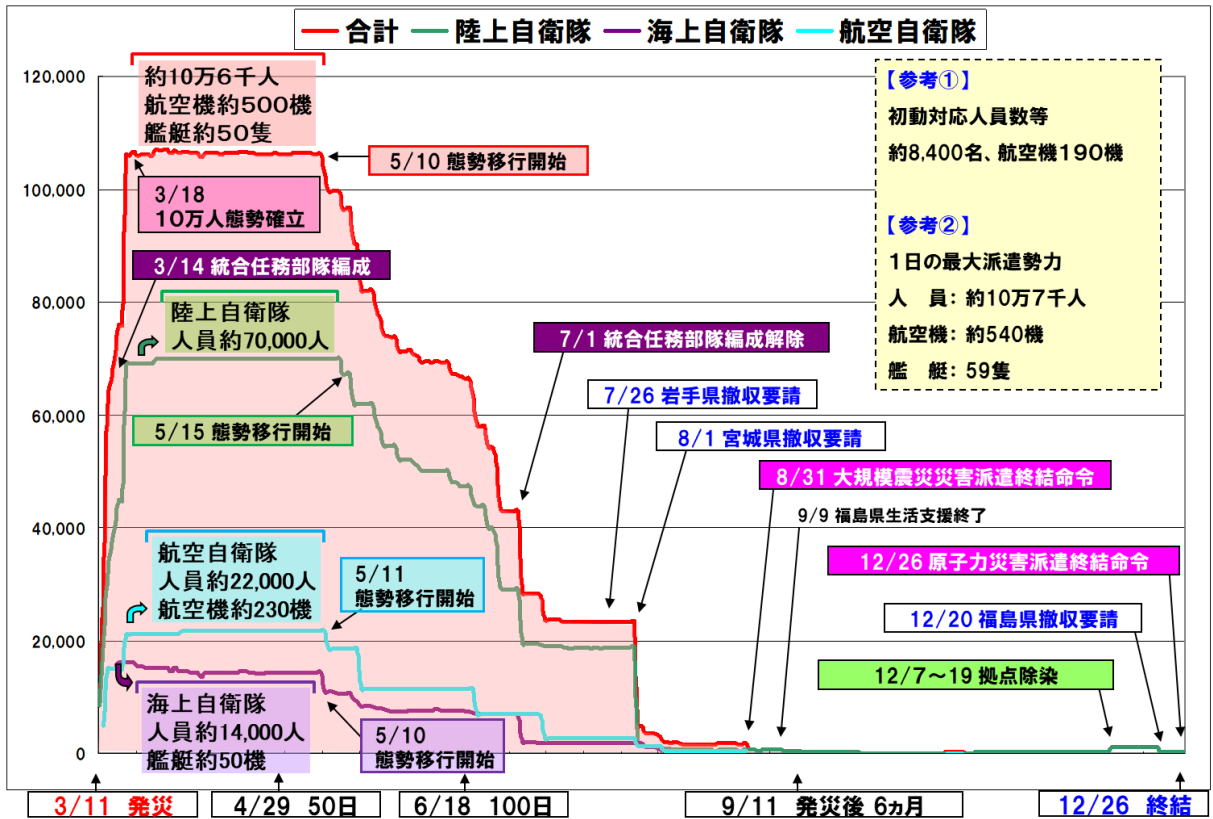


宮城県気仙沼市中央公民館
における活動



全国からの陸災増援部隊は、岩手県、宮城県、福島県に投入された。この際、津波による被害が最も甚大であった宮城県には、2個師団、2個旅団が展開した。

派遣規模の推移



3月11日 初動対応人数等 約8,400人、航空機190機

※参考①

3月14日 統合任務部隊編成

3月18日 10万人態勢確立

7月1日 統合任務部隊編成解除

7月26日 岩手県撤収要請

8月1日 宮城県撤収要請

8月31日 大規模震災災害派遣終結命令

12月20日 福島県撤収要請

12月26日 原子力災害派遣終結命令

搜索活動等

[目次へ](#)

人命救助・行方不明者の搜索等の状況

岩手県宮古市津軽石



宮城県東松島市大曲



宮城県気仙沼市



宮城県岩沼市下野郷浜付近

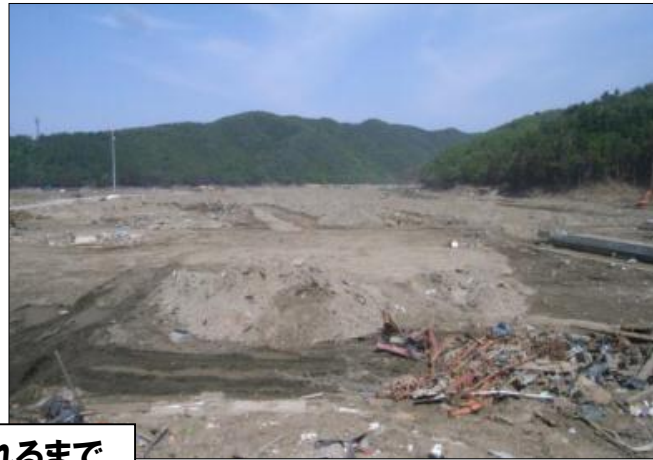


宮城県名取大橋 西側道路



行方不明搜索活動

石巻市大川小学校



父兄が納得されるまで
土砂を掘り起こし搜索

石巻市富士沼地区



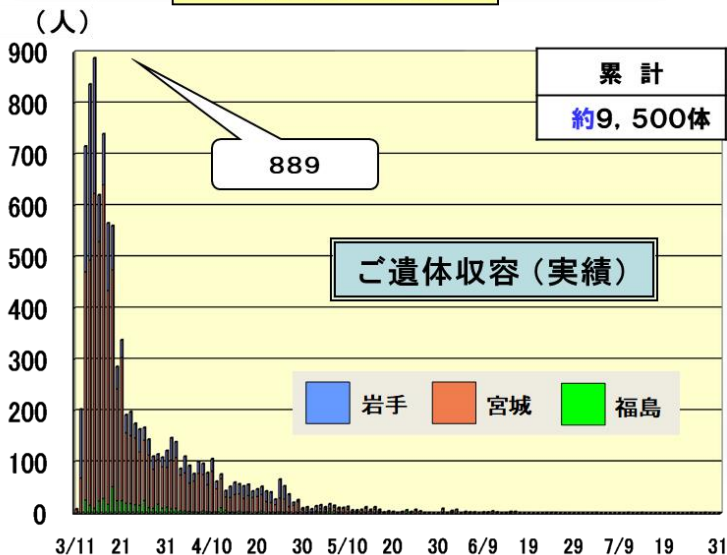
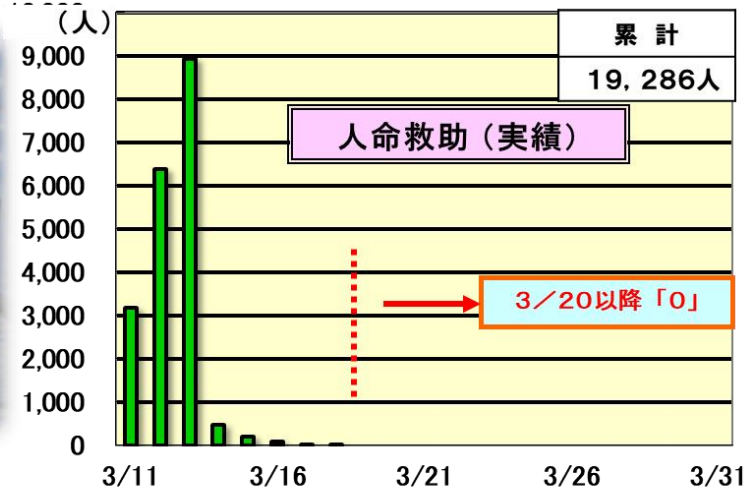
・冠水地域の搜索
・水抜き後の搜索

土砂であふれかえった地域においては、土砂をすべて掘り起こして、また冠水地域においては、水抜き後に搜索する等、一人でも多くの方を搜索するための徹底した活動を実施した。

人命救助等の実績



人命救助の状況



ご遺体の収容状況

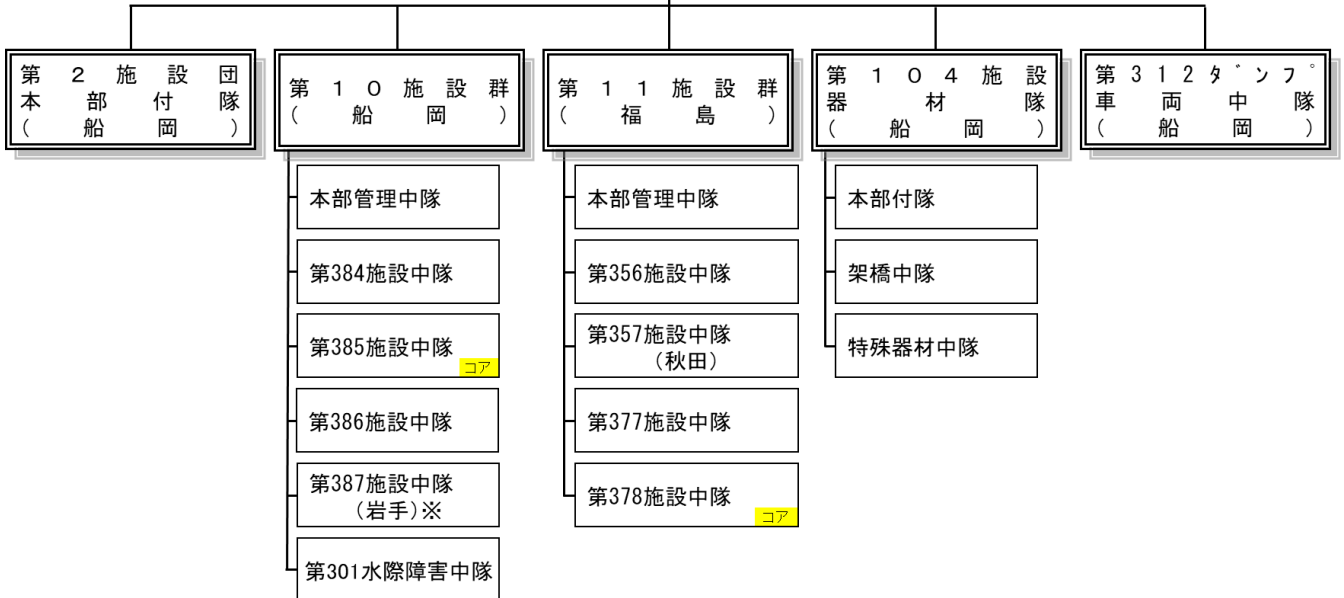
- 人命救助は累計19,286人であった。
- ご遺体の収容実績は、9,500体にのぼり、
もっとも多い時期には1日約900体を収容した。

第2施設団の活動経過

[目次へ](#)

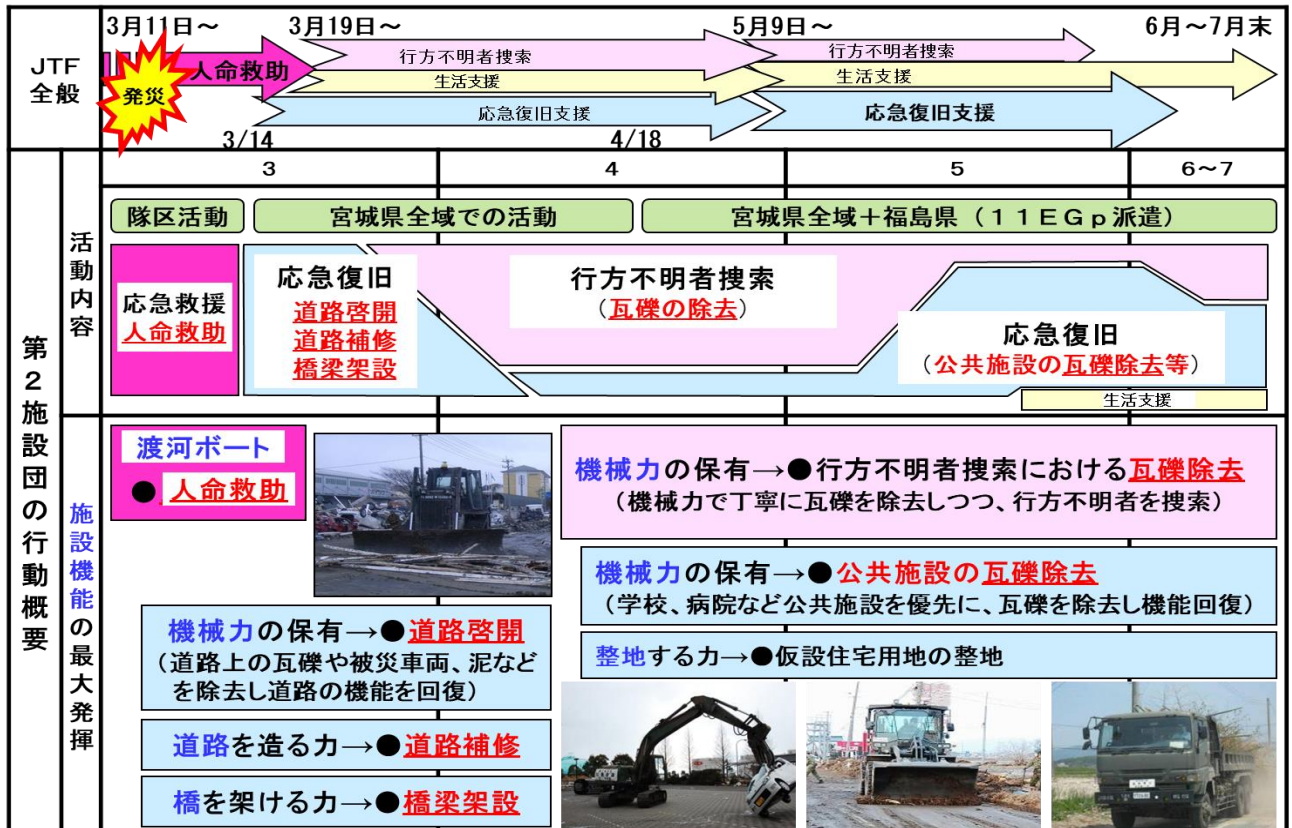
第2施設団の編成

第 2 施 設 団



※ 第10施設群第387施設中隊は、全般を通じ第9師団とともに活動

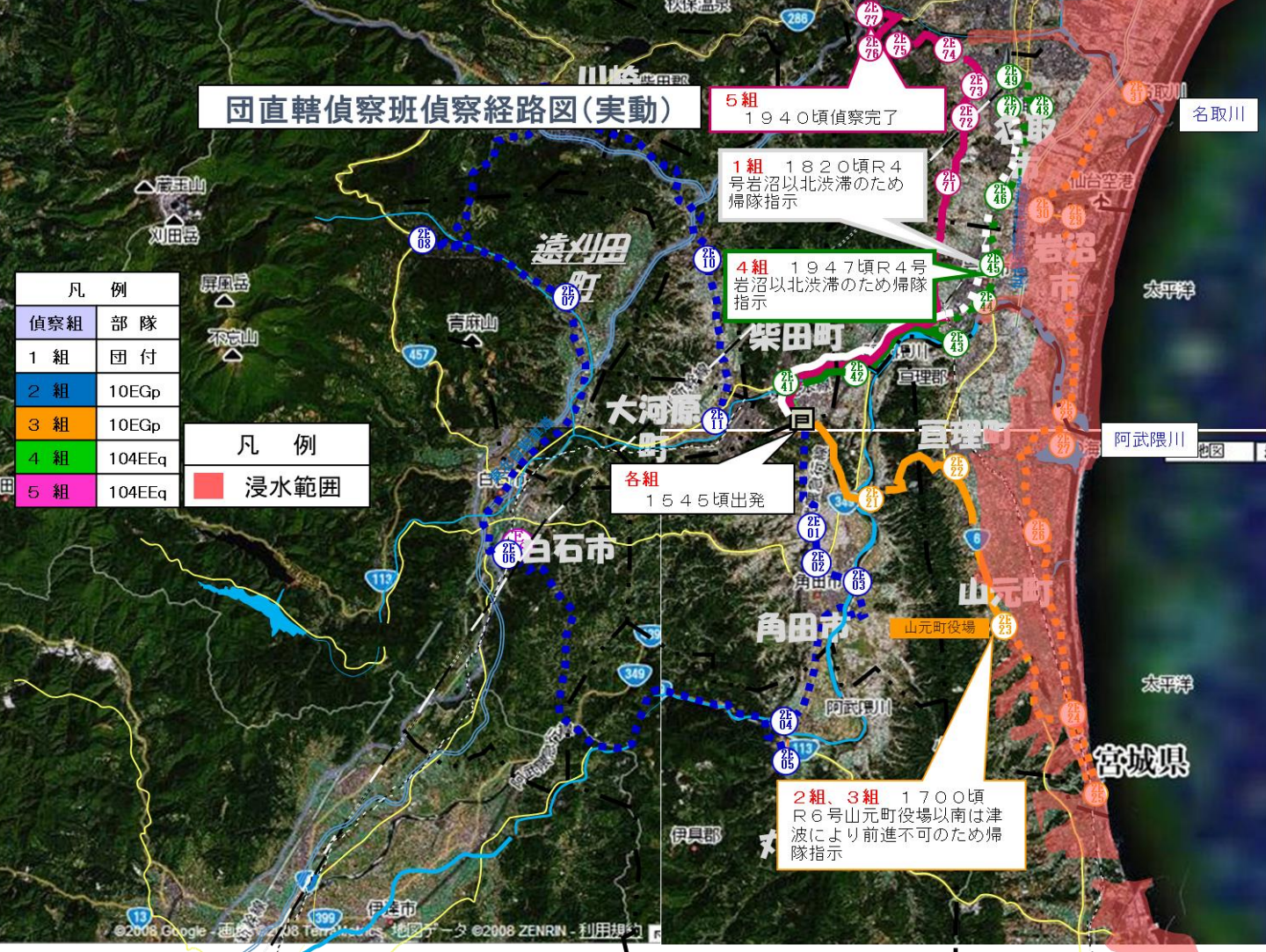
第2施設団の活動経過



第3種非常勤務態勢に移行



団は、3月11日1446地震発生後、直ちに第3種非常勤務態勢へ移行し、宮城沖地震対処計画に示された任務にもとづき、第2施設団災害に関する行動命令（以下「行災命」という。）を発令、第6師団の指揮下で情報収集活動、応急救援活動等を開始した。



団は、団直轄5コ偵察組を1545出発させ、名取市・岩沼市を含む仙南隊区の主要地点（方面指定地点）及び主要道路沿いの被害状況の偵察を実施した。

角田市、白石市、柴田町以西の地域～岩沼・名取市西部丘陵沿いは、大きな被害は見られなかったが、道路上に段差や若干の陥没が確認された。

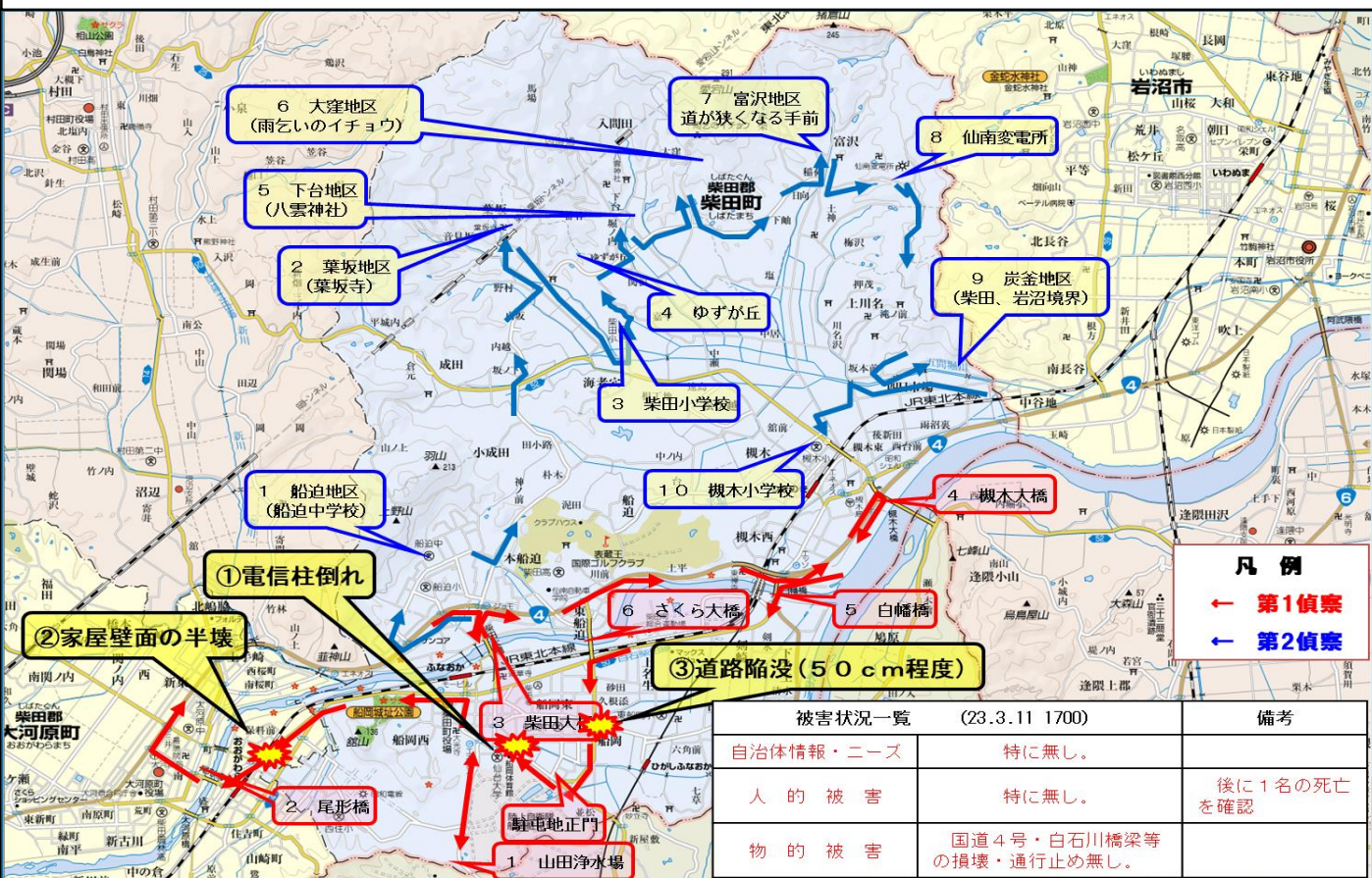
沿岸部（名取市関上～山元町）は、津波に巻き込まれる危険性等から地上偵察を中断して退避せざるを得ず、1947すべての偵察班を帰隊させたため、被害状況の把握は不十分なものとなった。

角田市・丸森町の被害状況（偵察経路・結果）

- 1700 隊偵察組駐屯地出発
- 1830 東根橋より約1km地点で、距離50m
段差約3mの道路の陥没を確認報告
- 1910 東根橋より国道349号線を角田方面へ
迂回し、角田橋を通り偵察経路上に戻る。
その間、異状なし。
- 1935 104E02で、中学校に避難している
避難者16名を確認報告
- 2057 104E07まで異状なし
- 2102 西根小から約3キロ地点片側車線に長さ
約10m段差約10cmの亀裂を確認
報告
- 2114 駐屯地到着



柴田町の被害状況（偵察経路・結果）



各部隊の展開状況（１３日まで）

	活動地域	活動部隊	クロノロ
	名取市	第10施設群	11日 1845: 初動小隊出発 2234: 初動小隊到着 12日 0210: 増援1コ小隊派遣 0450: 増援小隊到着 1600: 385中隊長以下79名道路啓開及び人命救助活動 385
	岩沼市		11日 1945: 人命救助小隊出発 2145: 人命救助小隊到着 12日 0210: 1コ小隊派遣 0405: 増援小隊到着 1600: 384中隊長以下92名道路啓開及び人命救助活動 384
	亶理町	第104施設器材隊	12日 1000: 人命救助隊集発 1020: 人命救助隊到着 Seq
	山元町	第312ダンプ車両中隊	12日 1050: 亶理公民館へ前進、到着後、人命救助活動
		第104施設器材隊	12日 0520: LO山元町役場へ前進 0620: LO山元町役場到着 Brg

当初、初動対処小隊等を名取市に前進させ、じ後、第10施設群を名取市及び岩沼市に、第104施設器材隊を亶理町及び山元町に、第312ダンプ車両中隊を第104施設器材隊の増援として山元町へ前進させた。

また、第11施設群を第44普通科連隊の指揮の下（指揮の特例）、相馬市に前進させ、速やかに人命救助活動を実施した。

（救助した被災者 626名）

各地域における活動状況



渡河ボートによる救助(名取市)



救助活動(山元町)



冠水孤立地域への進出(亶理町)



救助活動(相馬市)

当初の応急復旧活動は、人命救助活動に係わる緊急自動車の通過並びにライフライン及び救援物資輸送に必要な道路の啓開を重視して実施した。特に海岸地域の物資輸送に使用する国道45号線を優先して道路を啓開した。

各部隊の派遣活動 第1期 応急救援活動

[目次へ](#)

第1期（応急救援活動 3月11日～13日）

応急救援活動においては、当初、初動対処小隊等を名取市に前進させ、じ後、第10施設群を名取市及び岩沼市に、第104施設器材隊を亘理町及び山元町に、第312ダンプ車両中隊を第104施設器材隊の増援として山元町へ、また、第11施設群を第44普通科連隊の指揮の下（指揮の特例）相馬市に前進させ、速やかに人命救助活動を実施した。この活動において、救助した被災者は、626名であった。



3月11日1600頃の名取市沿岸部



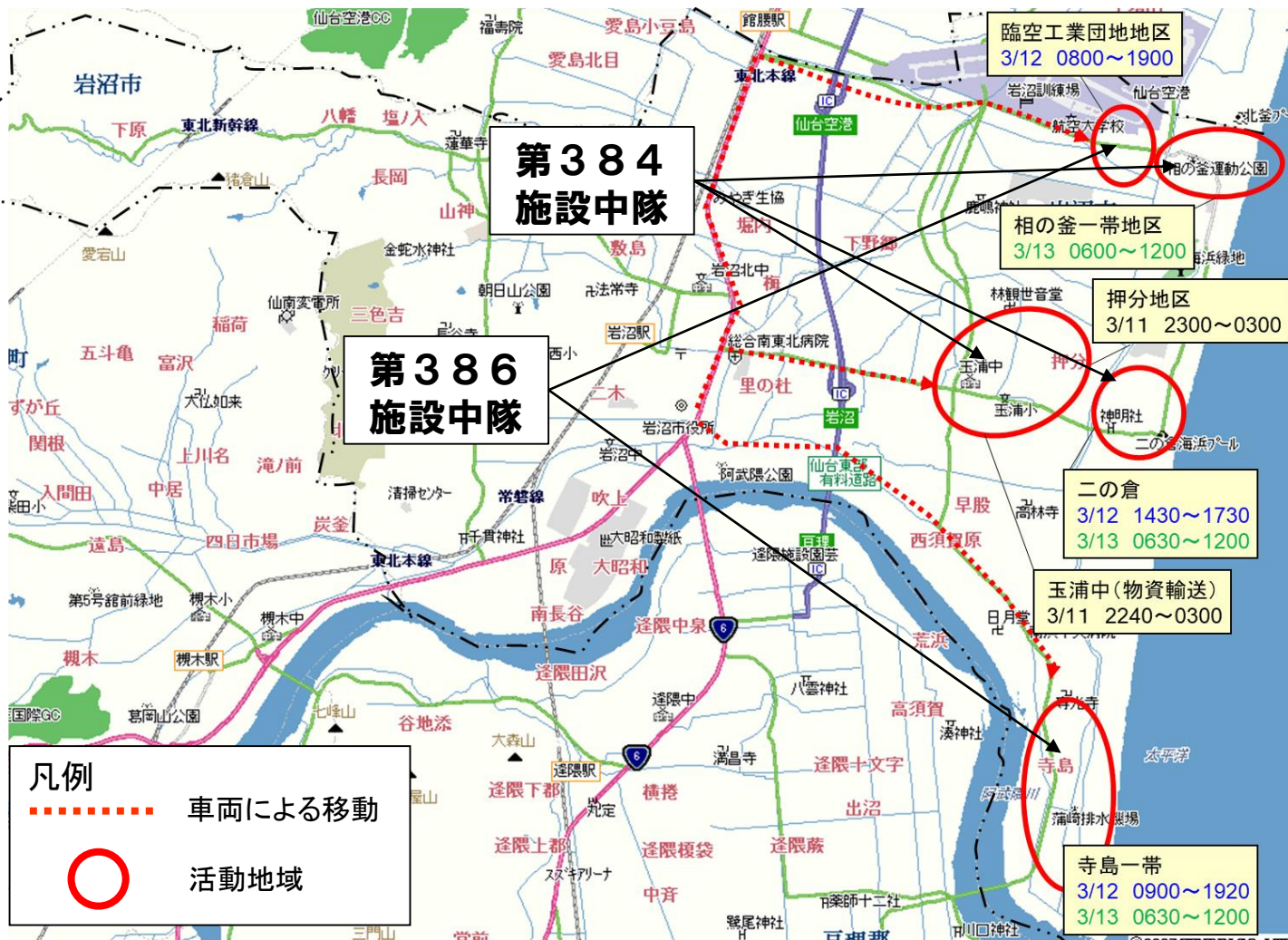
渡河ボートの組立（岩沼市）第10施設群

名取市（第10施設群）



11日1845に第385施設中隊の1個小隊を名取市に、1945に第384施設中隊を岩沼市に派遣して人命救助活動を開始した。

岩沼市（第10施設群）



主力到着後は、第301水際障害中隊、第386施設中隊を名取市及び岩沼市に配置し、13日1200まで人命救助活動を実施した。



渡河ボートによる救助（名取市）第10施設群

この間、渡河ボートを活用して冠水孤立した地域の被災者や、小学校などに避難した住民を救助した。隊員一人一人の積極的な活動により、多くの人命（155名）を救助することができた。

相馬市（第11施設群）



第11施設群は、発災後、直ちに、第3種非常勤務態勢に移行し、派遣準備を進めるとともに、福島に所在する群主力は第44普通科連隊の指揮のもと（指揮の特例）速やかに情報収集活動、応急救援活動を着手した。



救助活動（相馬市）第11施設群

写真提供：福島民友新聞

3月12日2145第44普通科連隊の指揮の特例が解除されるまで、相馬市において渡河ボートを活用した救助活動等を迅速かつ適切に実施し、多くの人命（22名）を救助した。

亘理町（第104施設器材隊）



第104施設器材隊は、12日0540山元町に先遣小隊14名を派遣、0710に架橋中隊長以下主力を増援するとともに、12日1000亘理町に特殊器材中隊長以下1コ小隊基幹を派遣し、人命救助活動を実施した。

山元町（第104施設器材隊）



12日1150には、第312ダンプ車両中隊の増援を得て、山元町、亘理町において13日1500まで人命救助活動を実施し、多くの人命（第312ダンプ車両中隊と合わせ449名）を救助することができた。

亘理町（第312ダンプ車両中隊）



第 3 1 2 ダンプ車両中隊は、3 月 1 2 日 1 0 5 0、中隊長以下 2 7 名が当初、亘理町役場に集結、じ後山元町役場へ前進し、第 1 0 4 施設器材隊の支援に任じた。



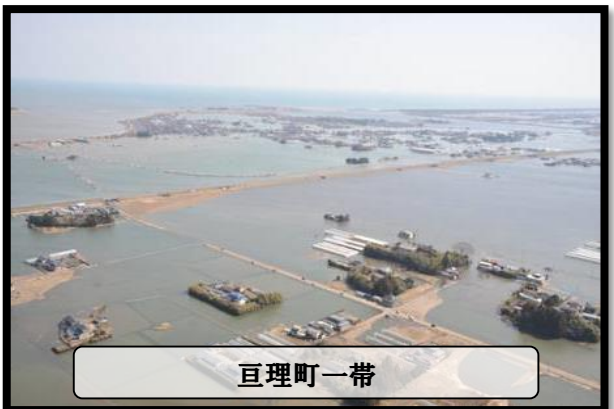
山元町での活動の様子（第312ダンプ車両中隊）

特に、山元町内における人命救助を行い、山下駅周辺、戸花山及び磯浜公園で多くの孤立者、負傷者を救出した。
（第104施設器材隊と合わせ449名を救出）

被害状況



被害状況



活動状況（孤立者の搜索及び救出）



渡河ボートにより
冠水地域から孤立者を救出



ヘリコプター（ホイスト）により
冠水地域から孤立者を救出



孤立地域の家屋から孤立者を救出



胴長を装着し、冠水地域から孤立者を救出

活動状況（行方不明者の搜索）



積み重なる瓦礫等をかき分け搜索する隊員



冠水地域の積み重なる瓦礫等を撤去しつつ搜索する隊員



胴長を装着して冠水地域を搜索する隊員



サージカルマスク・ゴム長手袋を装着して搜索

活動状況（入浴支援）



各有名温泉から提供頂いた「湯の花」で「ミニ温泉」



暖かな待合室で団らん



大分から駆けつけたボランティアも久々の入浴



女性入浴者のニーズに応じてドライヤー室を設置

活動状況（輸送支援）



粉ミルクとおむつを受け取った後、涙する母親



救援物資を受け渡し、お互いに安堵と笑顔が溢れる。



役場の方と連携して救援物資（食料）を避難所へ卸下



調達された白手を装着して柩を丁寧に扱い安置所へ移送

活動状況（沿岸部搜索）



上空からの海岸部の搜索



空地連携による行方不明者の発見



水際でのご遺体の収容



海上保安庁・海自のダイバーによる水中搜索

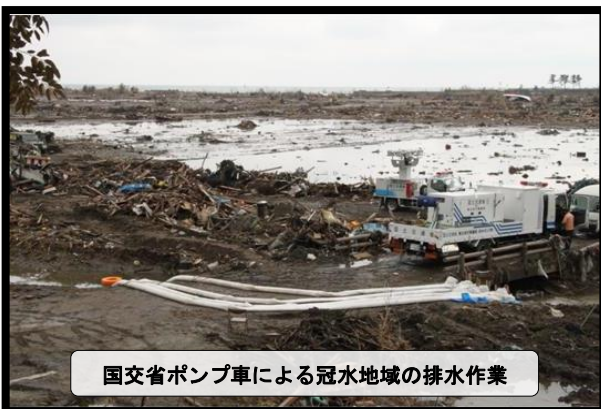
活動状況（部外機関等との連携）



民間重機と連携した瓦礫内の行方不明者搜索



米軍との共同による仙台空港の瓦礫撤去



国交省ポンプ車による冠水地域の排水作業



民間ダイバーとの連携による水中搜索

活動状況（ご遺体の収容）



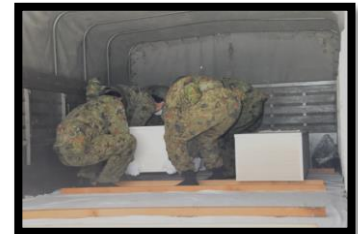
ご遺体の埋葬等に係る輸送



- 【安置所から柩を搬出】
- 柩の搬出前に黙祷
 - 6名1組で丁寧に搬送



- 【柩を車両へ積載(1)】
- 架台に積載要員（4名1組）を配置



- 【柩を車両へ積載(2)】
- 架台の資材
毛布8枚、シーツ6枚角材
(5cm×5cm×300cm)×6
 - 積載可能柩数
特大型トラック 9柩
31/2tトラック 6柩



【柩への黙祷】



- 【柩を埋葬場所へ輸送】
- 市・町役場との協力（消防団）により、梯隊を組んで移送
 - 先導車及び消防車は回転灯及び前照灯を点灯（その他は前照灯のみ）



- 【柩を埋葬場所に卸下】
- 市・町役場職員及び消防団とによる柩の卸下
 - 最後に全柩に対し黙祷

各部隊の派遣活動 第2期 応急復旧活動

[目次へ](#)

第2期（応急復旧活動 3月13日～7月31日）

第2施設団は13日1200以降、応急復旧活動に移行した。応急復旧活動において、団は、次の各種施設作業を中心に活動した。

● 行方不明者捜索支援（瓦礫除去）

自治体のニーズや地域担任部隊の行方不明者捜索要領に応じて、グラップル付油圧ショベルにより、瓦礫を除去しつつ行方不明者を捜索した。

● 道路啓開等

第2期以降の道路啓開は、部隊の展開、ライフライン確保等のための幹線道の啓開を優先して実施した。この際、当初の段階における道路啓開は、瓦礫を運搬せずに歩道等へ除け、緊急車両等の速やかな移動経路確保に努めた。また、緊急車両の通過及び物資輸送ルート確保のため、パネル橋MGBを南三陸町志津川に架設するとともに、孤立した東松島市宮戸島に民間油圧ショベルを輸送するための92式浮橋による3舟重門橋を構築・運航した。

● 公共施設等の整備

役場、病院、学校、物資集積所等における瓦礫の除去等を実施した。

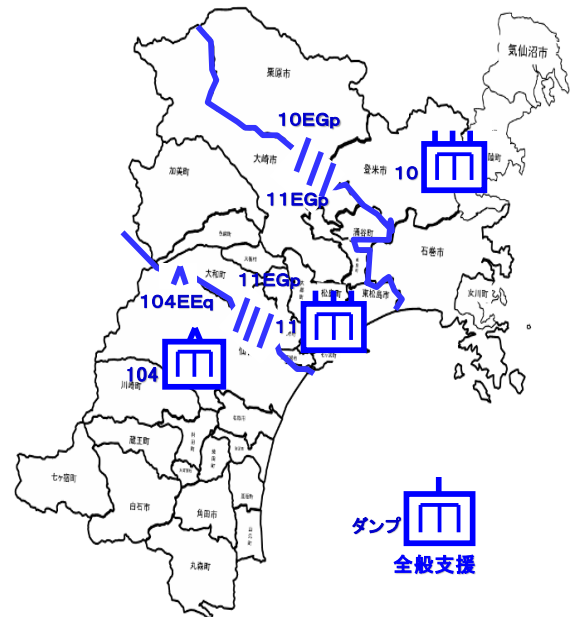
第312ダンプ車両中隊等をもって、救援物資や燃料の輸送、米軍支援（校庭廃土の運搬）等を実施した。

第2施設団は、宮城県において、当初、第10施設群に石巻市以北を、第11施設群に東松島市～多賀城市までの宮城県中部地区を、第104施設器材隊に仙台市宮城野区、若林区を担当させた。

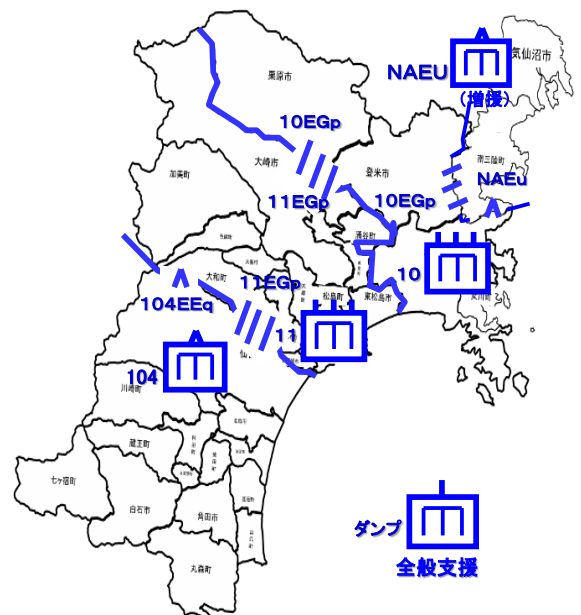
3月15日、第2施設団は、北部方面施設隊の増援を受けるとともに、被害の大きい宮城県北部の気仙沼市、南三陸町を第10施設群から北部方面施設隊に担任を変更した。

また、3月18日、団は、被害の大きな石巻市、女川町を担当している第10施設群に第104施設器材隊（架橋中隊を除く。）を増援し、同地域の応急復旧活動の推進を図った。

第2施設団担任地域図（当初）



#1 担任地域変更図



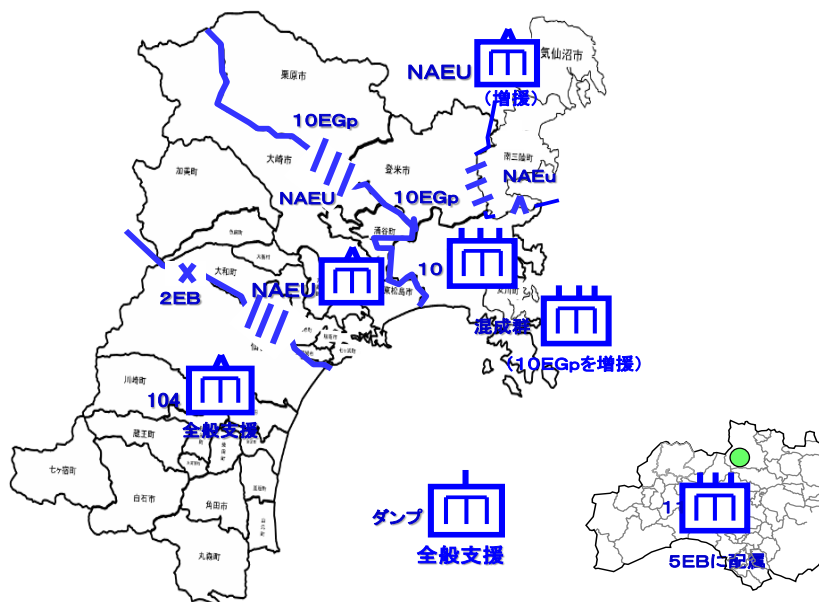
3月21日、第10施設群を増援していた第104施設器材隊を団直轄（じ後の橋梁架設等の任務を考慮し、団直轄として運用）とし、団直轄地域である仙台市宮城野区及び若林区の応急復旧活動を実施させた。

なお、4月12日、第1施設団混成施設群（長：第4施設群長）の配属を受け、第10施設群を増援させ、雄勝地区、牡鹿半島地域における行方不明者搜索の進捗を図った。

#2 担任地域変更図

4月12日第1施設団混成施設団が配属

4月18日第11施設群を第5施設団に配属
(原子力災害派遣)



そして、4月18日には、地元福島部隊である第11施設群を第5施設団に配属し、福島第1原発付近の避難指示区域における行方不明者の搜索を命じた。これに伴い、第11施設群が担任していた宮城県中部地区は、北部方面施設隊が19日0800以降担任実施した。

6月12日には、第5施設団の施設支援を第11施設群が引き継ぎ福島県全域を、6月21日には、第1施設団混成群の施設支援を第10施設群が引き継ぎ、宮城県全域を担当した。

〈第10施設群〉

第10施設群は3月13日1200以降、移動準備を実施、14日1100群主力は石巻総合運動公園に到着し、群指揮所を開設、気仙沼市、南三陸町、石巻市、涌谷町、女川町、登米市及び栗原市の応急復旧活動に移行した。

第10施設群は、3月14日以降、石巻市及び女川町を中心に、国道45号線、398号線、県道7、30、41、238、240、251号線の道路啓開及び道路補修を実施した。



石巻総合運動公園に進入する第10施設群



第10施設群

吹雪の中、進む道路啓開（398号線石巻市）



第10施設群

道路啓開（石巻市大門、門脇地区）



第10施設群

施設技術を発揮した道路補修（女川町）

また、3月13日～6月22日までの間、師団等が実施する行方不明者の搜索活動を支援、グラップル付油圧ショベルによる瓦礫の除去を実施した。

その間、3月15日には、気仙沼、南三陸に展開する部隊を石巻正面に転用するとともに、3月18日～3月25日の間、第104施設器材隊の増援を、4月12日からは、第1施設団混成施設群の増援をうけ、被害甚大であった石巻市を中心に瓦礫の除去を実施した。

一方、第387施設中隊は最後まで指揮の特例を解かれることなく9師団に配属されたまま地元岩手県で活動した。



第10施設群

搜索支援（石巻市）



第10施設群

石巻小学校の復旧整備

4月30日、第10施設群は、石巻総合運動公園に、石巻・女川地区施設調整所を設置し、石巻市における施設科事項の統制・調整を実施した。

石巻市は、合併までもない市で、6コの支所に行政地域が分かれていたこと、3コの師団・旅団が地域担任部隊となっていたことから施設調整所の設置は、有効であった。



第10施設群

搜索支援（岩手県山田町）



第10施設群

石巻・女川地区施設調整所内での群長状況確認



第10施設群

テレビ局による取材受け（石巻市）

また、第10施設群は、4月16日～24日までの9日間、第384施設中隊により石巻市魚町の瓦礫の処理等を実施し、冷凍魚等の処理に必要な道路を開設した。これは、腐敗する冷凍魚を海洋投棄するための道路啓開であり、非常に強い臭気の中、おう吐しながら油圧ショベルを操作する隊員もいた。



第10施設群

石巻市魚町地区の道路啓開



第10施設群

冷凍倉庫に残置された水産物の搬出（石巻市）

なお、第10施設群は、5月18日～7月23日まで第10師団に第301水際障害中隊を基幹部隊とする給食1コ班、給水1コ組を配属し、宮城南部生活支援隊の一部として、給食支援及び入浴支援を実施した。



第10施設群

宮城南部生活支援隊（岩沼市）
毎日約700食分の食事を提供



第10施設群

入浴支援（山元町）

〈第 1 1 施設群〉

第 1 1 施設群は、3 月 1 3 日 1 4 0 0、集結予定地域の王城寺原演習場に向け前進、到着後 2 2 3 5 指揮所を開設完了した。（指揮活動を容易にするため、1 5 日、群集結地を東松島市鷹来の森運動公園に移動）

3 月 1 4 日～4 月 1 7 日までの間、生活物資輸送に必要な道路啓開、小学校等公共施設内の瓦礫の除去、離島の道路補修等の応急復旧活動を宮城県内で実施した。

この間、1 4 日 0 6 0 0 から東松島市及び多賀城市において、捜索に必要な道路啓開を開始するとともに、連隊等に対し、渡河ボート等による救助支援を実施した。

なお 1 5 日には、被災した松島基地のレーダー機能回復のため、新たなレーダーを設置するための基礎を造成するのに必要な採石を王城寺原演習場から運搬し、整地を完了した。

3月20日の活動状況



第 1 1 施設群

渡河ボートを使用した行方不明者の捜索（松島市）



第 1 1 施設群

行方不明者の捜索（東松島市）



第 1 1 施設群

国道 4 5 号線の道路啓開（東松島市）



仙台港周辺の道路啓開



仙台市宮城野区（蒲生地区）での道路啓開

3月17日～19日までの3日間、仙台港周辺において、生活物資輸送に必要な道路啓開を実施した。



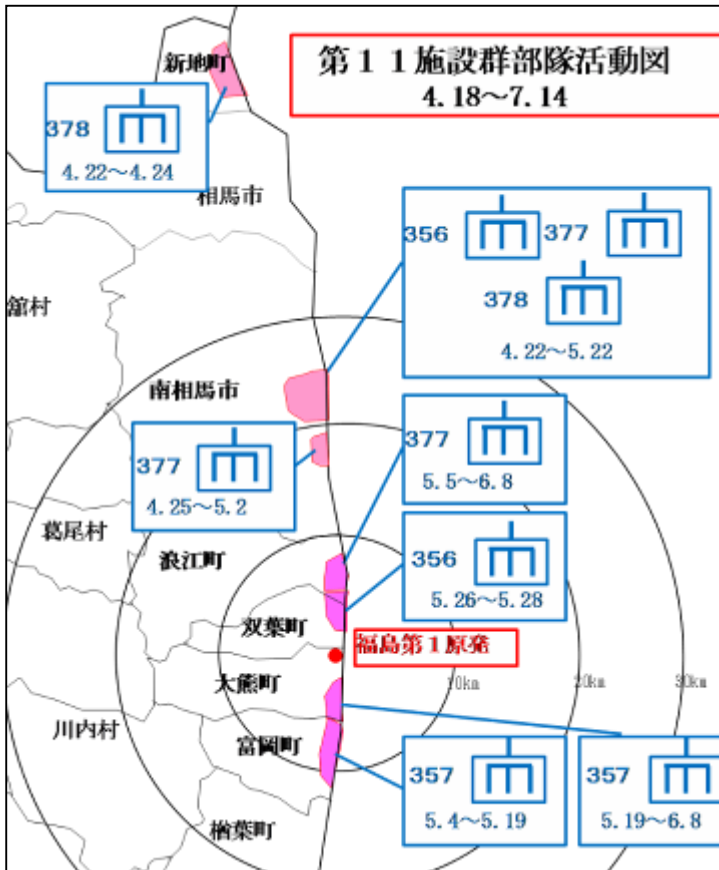
道路上の瓦礫の除去（桂島）

4月13日～17日までの5日間、離島である桂島に小型油圧ショベル、土のう、人員を積載した舢舨をタグボートにより運航し、上陸した。

上陸後、道路の補修・瓦礫の除去を行い生活基盤の確保を実施した。

なお、偵察要員はヘリにより上陸し、偵察を実施した。

福島第1原発周辺における活動



第11施設群は、4月19日に、東松島市の集結地から福島駐屯地に移動を完了し、原子力災害派遣における行方不明者の捜索支援を実施した。

この際、福島第1原子力発電所20km圏内の活動を実施することから、協同部隊である中央即応集団等が実施するモニタリング結果について情報を入手するとともに、自隊で活動地域におけるモニタリングを実施した。

また、各中隊は、普通科部隊等を直接支援し、民間建設機械力を統制した。



警戒区域内の活動に際しては放射線に関する事前教育等の実施、作業用防護衣の着用、放射線受線量の目安の設定、線量計3型による日々の受線量測定等、放射線受線量管理が確実に実施された。



- マスク・ゴーグル着用
- 作業用防護衣内は、高温多湿
- トイレは、一度全て脱衣

作業用防護衣の装着要領の教育



第11施設群

福島鹿島地区における瓦礫の除去



第11施設群

福島県宮田川の排水設備構築のための取付道構築



第11施設群

作業用防護衣を装着しての油圧操作手



第11施設群

浪江町の行方不明者捜索状況を確認する第2施設団長



第11施設群

排水設備構築のため1 t 土のうを作成（浪江町）



第11施設群

福島第1原発から5 kmの大熊地区での行方不明者捜索支援

〈第104施設器材隊〉

第104施設器材隊は、3月14日、応急復旧活動への移行に伴い隊指揮所を仙台市扇町四丁目公園に推進し、仙台市宮城野区・若林区の地域の応急復旧活動を実施した。

当初、3月14日～16日、第104施設器材隊は、架橋中隊、特殊器材中隊の総力をもって、瓦礫や被災した車両により途絶していた宮城野区・若林区地域の県道10号線、54号線及び蒲生浄化センター地域等の道路啓開を実施した。



第104施設器材隊

指揮所を仙台市扇町四丁目公園に推進



第104施設器材隊

ドーザと油圧ショベルの連携で道路啓開を実施
(塩釜～亙理線)



第104施設器材隊

仙台市宮城野区における道路啓開

また、3月16日から特殊器材中隊は、救援物資や燃料、復旧器資材の船舶輸送を可能とするため、仙台港地区の道路啓開を実施した。この港地区において、約7000mの道路を啓開した。



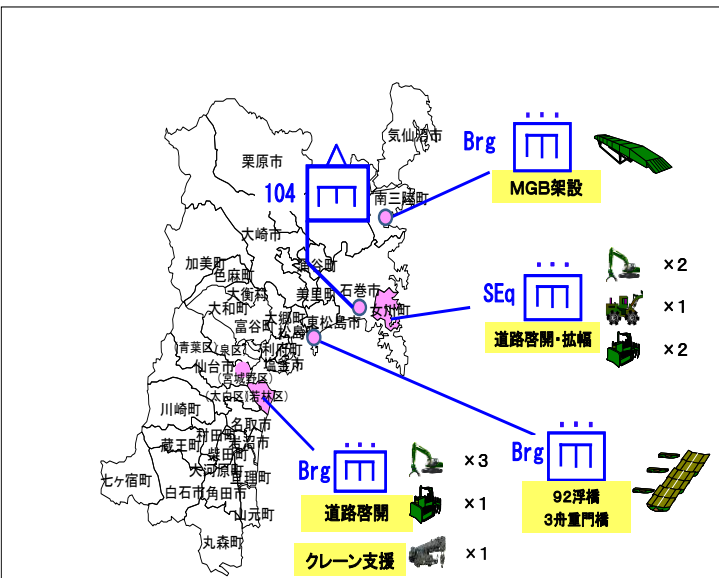
第104施設器材隊

名取大橋西側道路の道路啓開



第104施設器材隊

仙台市新港地区における道路啓開



第104施設器材隊
国道45号に架けられたパネル橋MGB
(南三陸町志津川地区)

3月18日には、津波被害により崩壊した南三陸町志津川地域の国道45号線水尻橋の応急橋梁を、架橋中隊がパネル橋MGBにより架設した。0900架設開始、1800には架設をすべて完了し、19日から車両通行が開始された。

この橋長40mのパネル橋MGBは、7月7日に国土交通省の架設橋が完成するまで、交通量の大きい（1日に1万台）国道45号線の通行を支え続け、志津川地区の「孤立」を救った橋、「命をつなぐ橋」として、地元の生活、復旧、復興に活用され、親しまれた。



民間の油圧ショベルをリースし瓦礫を除去(石巻市)



権道98号線の道路啓開(女川町)

第104施設器材隊は、3月20日～3月25日、第10施設群の増援任務に伴い、隊指揮所を石巻総合運動公園に推進するとともに、女川町の応急復旧活動を実施した。

架橋中隊は、3月23日、東松島市宮戸島の復旧活動に必要な民間重機材3台を、92式浮橋3舟重門橋により海上輸送した。

この作戦は、孤立した島への緊急の輸送であり、これにより、宮古島における道路などの復旧が進捗した。92式浮橋の海上運航は、陸上自衛隊として初めての活動であった。



第104施設器材隊

民間重機材を積載(東松島市宮古島)



第104施設器材隊

92式浮橋による重門橋運航(宮戸島)



第104施設器材隊

孤立していた宮古島へ建設機材が上陸



第104施設器材隊

仙台変電所における瓦礫除去支援

また、3月23日～26日までの4日間、架橋中隊が、被災を受けた仙台港変電所及び仙台市多賀城変電所に至る経路の瓦礫除去を実施した。この道路啓開により、変電所への進入が可能となり、変電所の復旧が進捗し、ライフライン回復を進めた。

なお、第104施設器材隊は、3月26日から5月18日、宮城野区及び若林区において方面特科隊が実施する行方不明者の搜索活動を支援、瓦礫の除去を実施した。



第104施設器材隊

中野小学校グラウンドにおける瓦礫の除去(宮城野区)

〈第312ダンプ車両中隊〉

第312ダンプ車両中隊は、3月14日から、石巻運動公園に指揮所を移転し、全般支援を実施した。この間、継続的に、石巻市、東松島市、仙台市等において、行方不明者の捜索を実施する各部隊に対するダンプ支援を実施した。



第312ダンプ車両中隊

捜索支援における瓦礫除去（吉野町）



第312ダンプ車両中隊

第10施設群の応急復旧活動を支援（女川町）

なお、米軍の実施した「トモダチ作戦」において、石巻市学校等瓦礫除去支援（4月4日～11日）、仙石線（東松島市、野蒜（のびる）駅及び陸前小野駅）の復旧支援（4月21日～25日）を実施した。



第312ダンプ車両中隊

瓦礫の運搬（石巻市がれき仮置場）

また、4月19日～22日にかけては、石巻市の日和大橋の破壊した橋台部の復旧工事を、第10施設群及び民間の土木会社と緊密に連携して実施した。

また、各避難所等への救援物資や燃料輸送を実施した。



第312ダンプ車両中隊

自治体への物資輸送



第312ダンプ車両中隊

石巻市日和大橋崩落の復旧

応急復旧活動の実績

[目次へ](#)

応急復旧活動の実績

※ダンプ1台:5 m³

区分	応急復旧任務	岩 手 県	宮 城 県	福 島 県	合 計
応 急 復 旧	道路啓開	45, 316m EBn 20, 553m EB 24, 763m	398, 918m EBn 82, 724m EB 316, 194m	85, 415m EBn 36, 219m EB 49, 196m	529, 649m EBn 139, 496m EB 390, 153m
	道路補修	2箇所 500m	19箇所 14, 534m	3箇所 4, 200m	24箇所 19, 234m
	公共施設の瓦礫の処理	24, 170m ³ (ダンプ4, 834台)	30, 040m ³ (ダンプ6, 008台)	4, 135 m ³ (ダンプ827台)	58, 345m ³ (ダンプ11, 669台)
	整 地	857, 097m ² EBn 40, 551m ² EB 816, 546m ²	29, 454m ² EBn 3, 420m ² EB 26, 034m ²	69, 868m ² EBn 0m ² EB 69, 868m ²	956, 419m ² EBn 43, 971m ² EB 912, 448m ²
	仮設住宅用地の整地	41m ² EBn 41m ² EB 0m ²	61, 662m ² EBn 0m ² EB 61, 662m ²	0m ² EBn 0m ² EB 0m ²	61, 703m ² EBn 41m ² EB 61, 662m ²
	橋梁架設(門橋×2を含む)	なし	6ヶ所	1ヶ所	7ヶ所
行 方 不 明 者 捜 索 支 援	瓦礫の除去(運搬)	427, 445m ³ (ダンプ85, 489台) EBn 276, 185m ³ EB 151, 260m ³	646, 460m ³ (ダンプ129, 292台) EBn 398, 858m ³ EB 247, 602m ³	270, 320m ³ (ダンプ54, 064台) EBn 98, 340m ³ EB 171, 980m ³	1, 344, 225m ³ (ダンプ268, 845台) EBn 773, 383m ³ EB 570, 842m ³
	瓦礫の処理 (移動のみ・概数)	85, 490m ³ (ダンプ17, 098台分)	22, 6260m ³ (ダンプ45, 252台分)	54, 065m ³ (ダンプ10, 813台分)	365, 815m ³ (ダンプ73, 163台分)

※ 阪神大震災の瓦礫量 1, 980万トンのうちの0. 6% (12万トン)を自衛隊が運搬

道路啓開（トピックス）

JX日鉱日石製油所（23. 3. 21～24）
道路啓開 5600m、車両約400台除去、土砂運搬約500m³



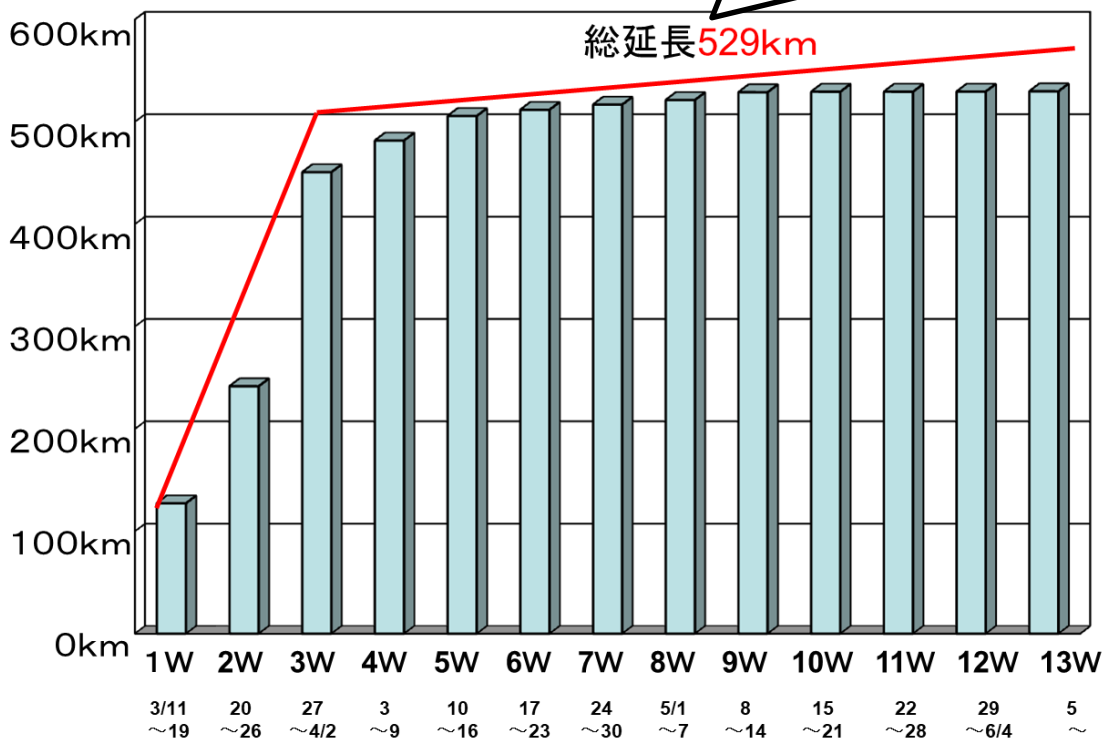
石巻市魚町地区の道路啓開（23. 4. 15～17）
腐敗する魚（海洋投棄）を取り出すため冷凍倉庫までの道路を啓開



道路啓開（岩手、宮城、福島3県の累積）

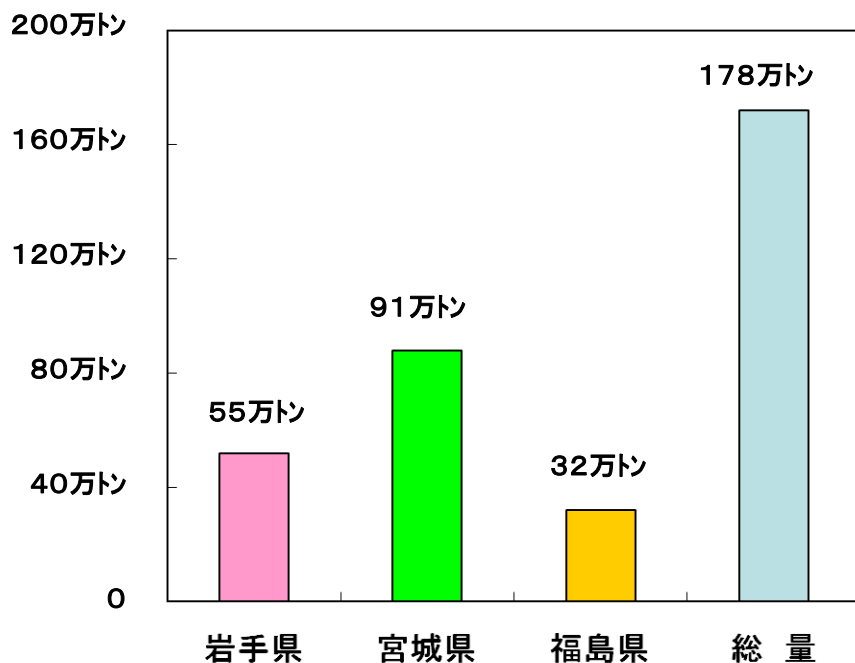
仙台宮城IC～静岡県清水IC間とほぼ同じ距離

道路啓開長



時間(週)

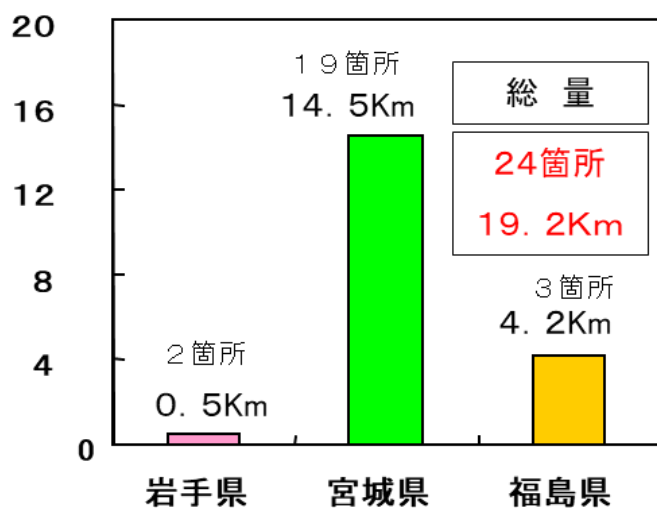
がれきの除去（岩手、宮城、福島3県及び総量）



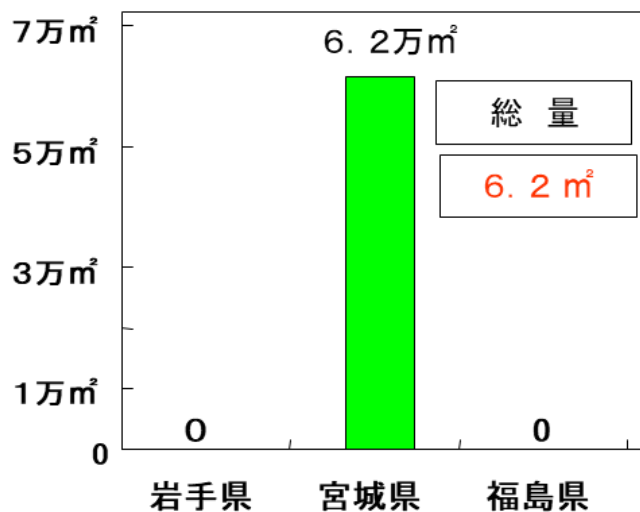
3 県の総量	
ダンプ 台数換算	約 3 5 万台
重量換算	約 1 8 0 万 トン
阪神淡路大震災 (瓦礫除去約 1 2 万トン) ↓ 約 1 5 倍 被害の甚大さ	

自衛隊の応急復旧支援の実績

道路補修

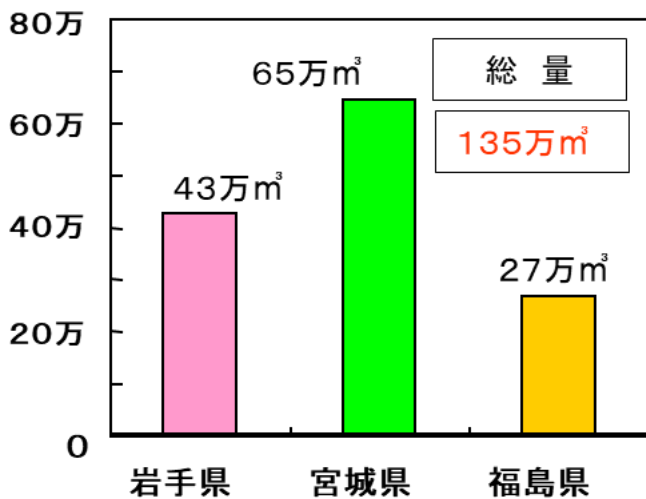


仮設住宅用地の整備

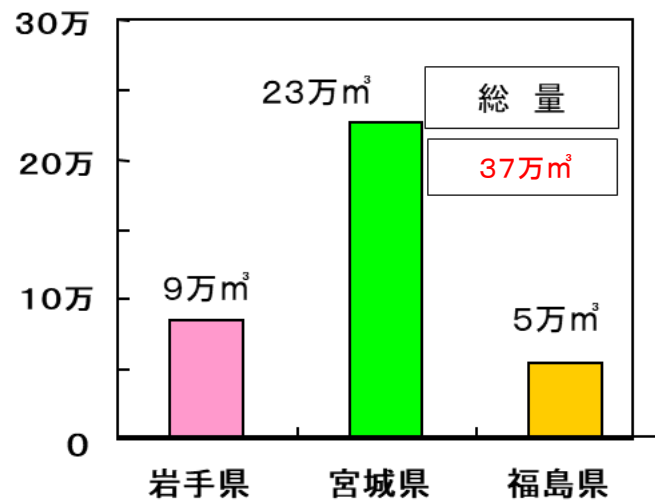


自衛隊の応急復旧支援の実績

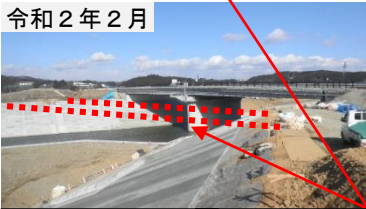
行方不明者捜索における
瓦礫の除去（運搬）



行方不明者捜索における
瓦礫の処理(移動のみ)

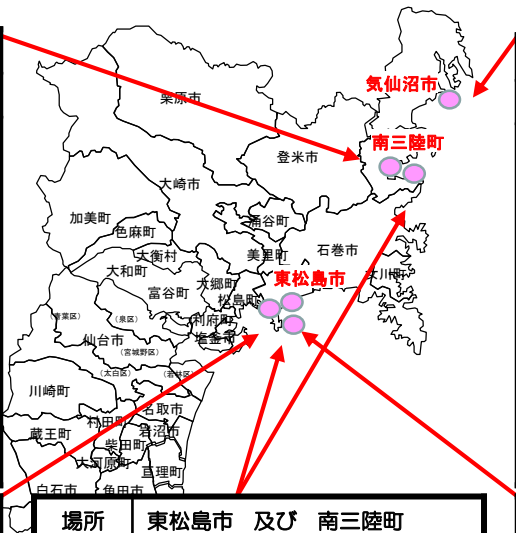


Before-After-Present

期 間	平成23年3月17日～18日（架設期間は、平成23年7月7日まで）		
場 所	三陸町志津川水尻橋（国道45号線）		
編 成	○ 事前偵察及び国交省との調整等：架橋中隊浮橋小隊 安藤3尉以下9名 ○ 架橋中隊架設作業小隊：パネル橋小隊 佐藤3尉以下30名		
活動内容	○ 事前偵察・調整（3.17（木）現地0800～1700） ○ パネル橋MGBによる応急橋梁架設「橋長：約40m／6h」 3.18（金）：作業開始0845：作業完了1800		
写 真	Before	After	Present
	 	 パネル橋MGB  国交省仮設橋	平成30年  令和2年2月  護岸工事のため、橋は撤去

橋梁架設（7ヶ所）

場所	南三陸町 水尻橋
種類	MGBパネル橋（約40m）
3月18日～7月7日	
	



場所	気仙沼市波路上 岩井橋
種類	徒橋（約30m）
3月25日～4月4日	
	

場所	東松島市
種類	軽門橋（5舟5導板）
3月29日	
	

場所	東松島市 及び 南三陸町
種類	自走架柱橋（約30m）
3. 19(東松島) 3. 22 (南三陸)	
	

場所	宮戸島 松が島橋
種類	92式浮橋（3舟重門橋）
3月23日	
	

Before-After-Present

期 間 3 / 2 2

場 所 県道240号線・門脇バッティングセンター前

編 成 第384施設中隊 中隊長以下17名

活動内容
道路啓開
油圧×1、ドーザ×1、バケット×1

Before

After

Present(令和3年2月現在)

写 真



Before-After-Present

期 間 3 / 18 ~ 19

場 所 県道240号宜山町

編 成 第384施設中隊 中隊長以下17名

活動内容
道路啓開作業
油圧×1、ドーザ×1、バケット×1

写 真

Before



After



Present(令和3年2月現在)



Before-After-Present

期 間	3/23～3/27		
場 所	県道41号野々浜		
編 成	第386施設中隊 中隊長以下20名		
活動内容	道路啓開 油圧×1、バケット×1、ドーザ×1		
写 真	Before	After	Present(令和3年2月現在)
			

Before-After-Present

期 間 3 / 26 ~ 28

場 所 県道240号松並2丁目

編 成 第385施設中隊 中隊長以下20名

活動内容
道路啓開
油圧×2、バケット×1

Before

After

Present(令和3年2月現在)

写 真



Before-After-Present

期 間 4 / 3 ~ 9

場 所 石巻市大門町4丁目

編 成 第385施設中隊 中隊長以下11名

活動内容
道路啓開
油圧（グ）×2、油圧（輪）×1

Before



After



Present(令和3年2月現在)



写 真

Before-After-Present

期 間 4 / 4 ~ 1 0

場 所 女川町女川橋

編 成 第 3 8 6 施 設 中 隊 中 隊 長 以 下 1 1 名

活 動 内 容
道路啓開、暗渠構築
油圧×1、バケット×1、ドーザ（乾）×1

Before

After

Present(令和3年2月現在)

写 真



Before-After-Present

期 間	4 / 1 4		
場 所	石巻市門脇地区県道7号線		
編 成	第385施設中隊 中隊長以下10名（即自5名）		
活動内容	道路啓開（道路拡幅（歩道含む）） 油圧（グ）×2 油圧（装輪）×1		
写 真	Before	After	Present(令和3年2月現在)
			

Before-After-Present

期 間 5月1日～15日

場 所 石巻市大街道釜北橋水路道路

編 成 第384施設中隊 中隊長以下22名

活動内容
水路浚渫（行方不明者捜索に伴う瓦礫の除去）
ロング油圧(グラップル) × 2 油圧(グラップル) × 2

Before

After

Present(令和3年2月現在)

写 真



自衛隊における 災害派遣とは

[目次へ](#)

自衛隊の任務・役割等

主たる任務

我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つため、**直接侵略及び間接侵略に対し我が国を防衛**（自衛隊法第三条）

**最も厳しい脅威
他国軍隊による侵攻**



これを**排除**する
ための組織

野外等の**インフラがない環境**で独立して行動し**各種脅威を排除する武力集団**
【自己完結能力の保有、損耗発生前提の設計】



自衛隊・米軍施設等の警護



国土防衛



弾道ミサイル等弾着後の対処



テロ対処



人道復興支援活動



陸 上 自 衛 隊



災害派遣



国際平和協力業務



国際緊急援助活動



在外邦人等輸送



国民保護

（写真は、訓練・イメージを含む。）

防衛力に期待される役割の多様化に応じ、あらゆる事態等に柔軟に対応

災害派遣の形態(自然災害等)



地震



風水害



火山噴火



山林火災



雪害



離島からの患者輸送

災害派遣の種類

要請派遣

都道府県知事等から要請を受けて行う派遣

河川等水防支援



救助・救命



給食・給水支援



入浴支援



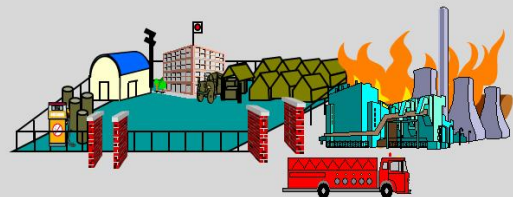
自主派遣

特に緊急を要し、
要請を待たないで
行う派遣



近傍派遣

防衛省の施設又はこれらの近傍に災害
が発生した場合に行う派遣



自衛隊に対する災害派遣要請権者及び命令権者

要請権者

※自衛隊法及び同施行令に規定

都道府県知事

海上保安庁長官

管区海上保安本部長

空港事務所長

命令権者

※自衛隊法及び災害派遣に関する訓令に規定

防衛大臣

陸上総隊司令官

方面総監

師団長

旅団長

駐屯地司令

災害派遣の3要件

1 緊急性

差し迫った必要性があること。

2 公共性

公共の秩序を維持するため、人命又は財産を社会的に保護しなければならない必要性があること。

3 非代替性

自衛隊の部隊が派遣される以外に他の適切な手段がないこと。

平素における災害派遣初動態勢

あらゆる事態に即応するため、**平素から待機態勢を確立、即応態勢を維持**



平素から待機態勢を保持

FAST-Force
First Action Support Force

【待機態勢】

- 人員： 約3,900名
- 車両： 約1,100両
- 航空機： 約40機



被災現場への迅速な前進



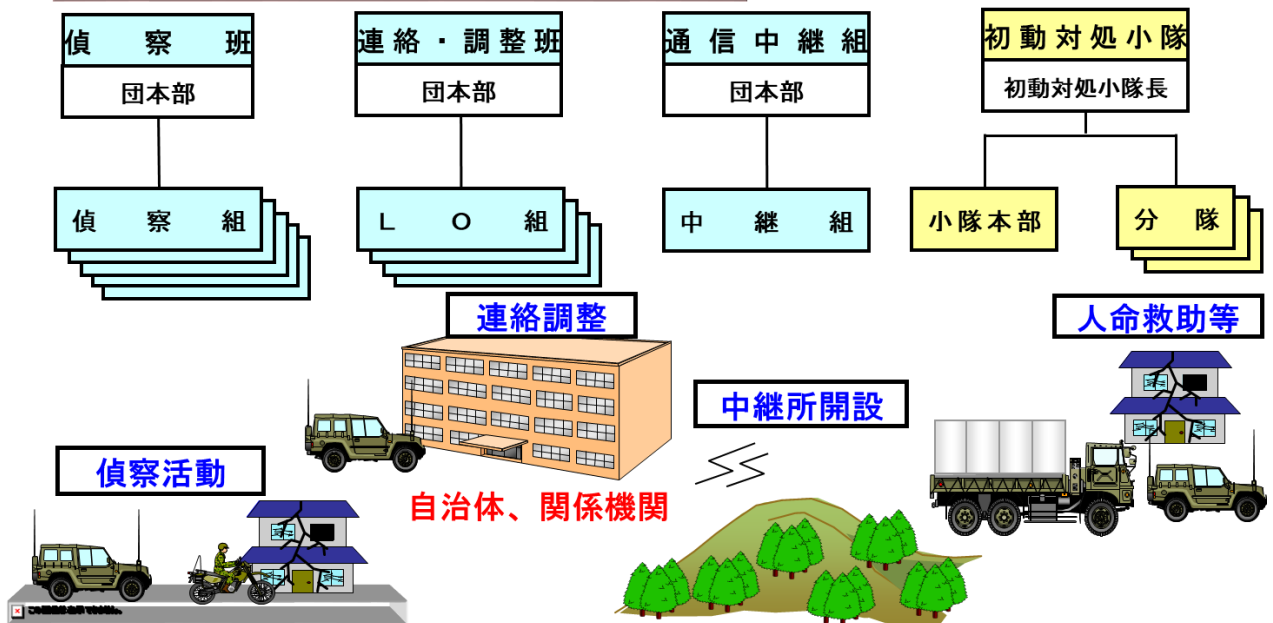
災害用ドローン



ヘリ映像伝送（胆振東部地震）

第2施設団の即応態勢

初動対処部隊（FAST-Force）



発災から **1 時間以内** で初動対処部隊が出動